

行政視察報告書

令和7年 2月17日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 平良 一雄

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ----- <概要> ① 茨城県取手市 ・市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について 取手市議会においては、議会広報の「ひびき」を発行しているが概要版であり、あくまでもSNS（X、Facebook、Youtube等）へ誘導する媒体であり、ペーパーレスにこだわっていました。また、議会や各種委員会もSNSを通してほぼ全てが公開されており、うるま市議会がいかに閉鎖的であるかを痛感した。 ② 千葉県船橋市 ・市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について 船橋市においても議会だよりを発行し、議会活動や決定事項を市民に広報しており

障がい福祉施設、地区社会福祉協議会、老人クラブ、一般事業者に依頼し、全戸ポスティングを行っていた。船橋市においても各種SNS（公式LINE、X）を活用し、議会や各種委員会を配信しているほか、聴覚障害者や手話通訳者のための字幕自動表示を行っていました。その他、議会見学会や出前講座の実施など多くの事案を学ぶことができました。

<所見>

①取手市議会だより「ひびき」は概要版のみで、費用は一回当たり307,000円の4回、それぞれ発行部数1万部で市広報と合わせ、シルバー人材センターへ委託し、市内156ヶ所に配置しており、市民が自由に入手できる仕組みであるが、市広報よりも残る部数が多いとのことであった。併せて、新聞折込も実施しているとのことであった。

「ひびき」はあくまでも市議会SNSへ誘導するための媒体であり、手に取ってもらった紙面の工夫など職員が担っているとのことであった。

従来の紙面による議会広報活動をSNS等を中心とした広報活動への変更に対する市民の反応は大きな苦情等もなく、スムーズであったということであるが「うるま市」においては乗り越えるハードルが高い気がした。また、議会におけるペーパーレス化も徹底されており、高齢の議員においても研鑽し、対応可能としているところは見習うべきであると感じた。

また、SNS等の活用については、うるま市も現在検討中である「YouTube」等による議会や委員会を全て公開しており、360度カメラを導入し、配信設定により、市民自らが見たい場面を閲覧することが出来る画期的な取組となっている。

さらに、会議録可視化システムによりライブの配信画面に発言した内容が字幕として表示されており、うるま市においても導入すべきであると感じた。

最後に、SNS運用を計画している本市に対し、どのようなことを誰が作成し、掲載していくのか、そして、どの媒体が良いのかを検討する必要性、そして「とにかくやってみよう」という意気込みが大事であるというアドバイスを頂いた。

②船橋市においては、「ふなばし市議会だより」をフルカラーA4版16頁、臨時会号で4頁、表紙、議案の概要、議案質疑、各委員会の報告、議案などの議決結果、会派の構成、一般質問、閉会中の委員会報告、お知らせを掲載し、市内全世帯約30万部をポスティングしており、取手市においても同様、うるま市における自治会を活用した配布方法とは異なった取組となっていた。また、一般質問の内容については、うるま市が市議個人の掲載であるが「企画・財政」「防災」「生活・安全」などジャンルごとに掲載されている点も異なるものであった。市議会だより発行に係る人員は5名で、主な編集スケジュールについてはうるま市と同様な取組であると感じた。

資料によると社会福祉法人を活用した点字版・音声版市議会だよりを作成し、視覚障がいがある方へ送付する取組や令和3年度より音声認識ソフト（UDトーク）を用いた聴覚障がい者向けの字幕配信を本議会の生中継に対し実施しており、うるま市も検討すべきであると感じた。

今回の研修テーマであるSNS等の活用以外であるが、市民の市議会や議員に対する現状認識、今後の市議会に求められる取組等について把握・分析することを目的として市民アンケートの実施や議会への関心を高めてもらうための取組として議会見学会、選挙権年齢18歳への引き下げに伴う若年層への主権者教育や身近な政治の場で

ある市議会について関心を持ってもらうことを目的とする出前講座の開催など、うるま市において取組のないことの重要な事案の研修にもなり、有意義な内容であった。

行政視察報告書

令和7年2月13日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 天願久史

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
取手市における各種 SNS などの議会広報活動	
【所見】	
取手市議会はSNSやWebメディアを積極的に活用し、情報発信	

を多様な層に届ける試みを進めている。

特に、議会広報「ひびき」は概要版で(紙媒体・A4版4ページフルカラー)主要なトピックス議案・請願と討論議決結果のみにすることで誌面を大幅に圧縮し、WEB版は、一般質問を紙媒体から移行し、AIによる要約、更に市のホームページに貼り付けることで、市民に広く読まれる事と同時にタブレット導入の費用捻出及び経費削減が図られている。

SNSではFacebookやX(旧Twitter)を利用して、議会のリアルタイム情報や市民との意見交換の場を提供し、YouTubeでは会議のライブ配信や録画公開を行う。

これにより、情報伝達の速さやアクセスのしやすさが向上し、若者層など多様な年齢層にアプローチできる。

しかし、SNSのデメリットとしては、情報発信のスピードが速いため、誤情報のリスクが伴う。

これを避けるため、職員がアカウント管理や投稿内容の確認を行い、慎重に運用している。

我が市議会においても、SNSを活用した新たな広報活動を検討しているが、情報発信の速さや訂正の難しさ、権利関係の精査などに対応するためのノウハウが不足している。

先進地の事例を学び、当市の広報活動に生かし情報を受け取る側の市民及びコストやペーパーレスを意識した取組が重要と考える。

船橋市各種SNSやUDトーク(自動字幕表示)活用議会広報活動

【所見】

船橋市議会は、SNS(LINEやX・旧Twitter)を利用

して会議情報や中継を市民に伝えている。

S N S 運用は費用をかけず、議会事務局が担当し、情報は市議会ウェブサイトのお知らせ記事を基に発信される。

返信は行わず、発信内容の確認作業は複数の職員で行い、2025 年 1 月 31 日時点で、公式 X フォロワー数 1,225、L I N E ターゲットリーチ数 1,213 である。

聴覚障害者向けには U D トークを導入し、議会のライブ中継に自動字幕を表示しており、このサービスは低コストで広く導入され、手話通訳者のニーズにも応えている。

また、市は広報活動として、全戸ポスティングや公共施設、駅スタンド、セブンイレブン、公衆浴場に情報を配布し、スマートフォンアプリ「マチイロ」にも掲載しており議会への関心を高めるために、議会見学会や出前講座、アンケート調査などを行っている。

議会審議では条例や予算、請願・陳情が扱われ、委員会で審査後、採決される。請願・陳情は市民や議員が提出し、採択後に関係機関へ送付される。

我がうるま市においても、費用をかけずに、更に事務局職員の業務負担にならないよう、注意を払いながら、市民に議会情報を届ける手段を先進地に学び、更に調査研究を重ね本市の発展に努めてまいりたい。

行政視察報告書

令和7年 4月 1日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 兼本 光治

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ＜概要＞ 【茨城県取手市】 SNS活用、インターネットを活用した茨城県取手市の議会を、市民がアクセスしていただき、議会に興味を持ってもらう取り組みとしてライブ配信を、市民と議会が身近である取手市の活動であった。議会広報活動については（広報ひびき）年間一万部程度で、30万円前後の予算で、SNS活用、インターネット配信を重要視し、予算も低コストに抑える。 うるま市議会広報委員会でも、幾度か広報誌の配布の在り方について、議論した。広報配付について、取手市の広報配付は全世帯配付をシルバー人材等がポスティング活動を行う。うるま市議会広報委員会でも、参考にする。

【千葉県船橋市】

SNS活用、インターネットを活用した議会活動については、取手市と同じ、SNS、インターネット活用が中心である。

船橋市議会の広報部数は約30万部、予算36,738,792円、発行回数が年4～5回、広報配付を、ポスティングによる全世帯配付。

議会への関心を高めるために、議会見学、出前講座、市民アンケート、音声認識ソフトを実施する。

うるま市議会広報委員会においても、今回の県外視察研修の中で、うるま市議会広報を市内地域へ、迅速に配布ができないかを視点におき、取手市、船橋市の事業を研究する。

行政視察報告書

令和7年 月 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 神田 洋一

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ①今回視察した茨城県取手市議会は議会改革、SNSを活用し議会広報に力を入れている。取手市議会は、議会改革度ランキングで1位になるなど評価されており、SNSなどインターネットを通して情報発信に積極的な議会である。 きっかけは平成の大合併を機に議員同士で議論し開かれた議会を目指すこととなった。何事にもとりあえず「やってみよう」の精神で失敗を恐れず取り組み、ダメだったらまた元の位置に戻ればよいという気持ちで議会改革を進めた。 SNSは市民に素早い情報発信を行い、議会情報をお手軽に入手できる利点と、情報発信する際には一度出た情報は取り消しができない事に気を付けてダブルチェックを経てリアルタイムで発信。 フェイスブック、メルマガ、X、ユーチューブをフル活用し様々な媒体で多くの市民に届くように開かれた議会に取り組む。 AIを活用した文字起こしや、要約を行い限られた事務局員にて効率的に情報発信を行っている。

広報の課題として手に取ってもらえないことであるが、現在会議録視覚化システム「アミボイス」を試験的に導入し、会議内容の分かりやすい情報提供に力を入れている。

議会だよりにおいては、WEB版で詳細な情報を明記し、概要版としてA3用紙のフルカラーを1枚コンビニやスーパー公共施設内など156か所に配置し多くの市民に取ってもらえるように心がけている。

特に感じたことは、予算の「スクラップビルド」限られた予算でどう新しい取り組みを行い、また何をスクラップしていくかと議論しあい改革を進めているところが先進的だと感じた。

②千葉県船橋市は特にSNSに力を入れ、費用をかけずに発信することと、事務局が慎重に発信すること、WEBサイトの情報に紐付けるように情報発信を行っている。また閲覧者からのコメントには返信しない、発信のみに限定する。

SNS活用に関しては事務局が運用を行うので、運用方針や運用ポリシーをしっかりと定めることが肝要だと感じた。

UDトーク（字幕自動表示）導入の経緯は、広報委員会にて聴覚障害者や手話通訳者からの要望があり、生中継を即時文字化し配信するに至った。

UDトークの特徴としては実績、費用面、結果を容易にWEB公開できるなどが選定の決め手となった。議会だよりの配布は障害福祉施設へ依頼し障害者雇用につながっているのも、とても良い取り組みに感じた。うるま市においては自治会長の事務委託の報酬となっているので、うるま市へは厳しいと感じた。

主権者教育として小学生から高校生まで議会に招き、見学会・意見交換会を実施していることは、議会広報特別委員会だけではなく議会全体の今後の取り組みに必要と感じた。

行政視察報告書

令和7年 月 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 金城 加奈栄

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事務局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会議務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 【茨城県取手市】 市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNS取組については、メリットとしては迅速に発信できるが・デメリットとしてミスやスピード重視としてあるが、迅速に発信するにあたり職員の体制と議会では、発言取消などがあった場合は、優先を考えて、対応しないといけないと思いました。 発信するにあたり、視聴する側から、さらに発信されると、修正があった場合の対応も改めて考える必要もある。 議会改革の取組として、議案の説明もZoom利用で説明し何回でも見られる対応している取組は、とても良いと思いました。市民意見も、市議会のホームページを借用。公共の場にも、広報紙を配置している取組を行っているとの事でした。

【千葉県船橋市】

取組について、費用や収益発生について、議論もない、費用も発生していないとの事、UDトーク（字幕自動表示システム）について、字幕発信により、聴覚障がい者や日本語が苦手な住民への情報提供は、特に高齢者からの多言語字幕はとても好評であるそうで、福祉の観点からの取組として考える必要あると思う。

今回は、初めての広報委員会視察でしたが、各地方自治体によつての違いを聞けて良かったと思います。

行政視察報告書

令和7年 2月 7日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 国吉 亮

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 ① 茨城県取手市の取り組みについて 取手市ではFacebook、Youtube、X、LINEなどで議会の情報を発信している。これまで取手市ではSNSによる発信を行っているがとくに大きなトラブルなどは起こっていないとのこと。議会での情報を各世代に届けるためには本市においても様々なSNSのチャンネルを開設し発信すべきだと感じた。 また、メルマガでも情報を発信することで情報が欲しい方に直接アプローチできるので本市でも取り入れるべきだと感じた。 さらにはAI字幕（スクライプアシスト）を活用し耳が不自由な方への対応も行っており傍聴の機会を広げている。 常任委員会においても傍聴をネット配信しており開かれた議会に努めていた。 取手市議会ホームページにおいては委員会資料や議案書も掲載されており市民の方でも閲覧できる仕組みを構築している。

議会広報においては1割が紙媒体で9割がホームページで行っている。経費削減にもつながり今後のうるま市の議会広報だよりも参考にすべきと感じた。

年に一度、議会についての出前講座を行っており高校生を対象に実施している。

取手市においては「まずは、やってみよう」の基本姿勢があり前に進むことの大切さを学んだ。

② 千葉県船橋市の取り組みについて

船橋市議会のXや公式LINEで議会の案内を行っていた。Xなど悪質なコメントにはどのように対応しているか質問したところ市民の方からのコメントは入力出来ない設定にしているとのこと。本市においてもまずは様々な年代に情報を発信するという意味ではXは導入すべきだと感じた。

UDトークも様々な方に議会を知っていただく意味では導入予算も高額でないため導入すべきと感じた。

最後にうるま市議会広報委員会として初めての県外視察であった。市民の方により議会を知っていただく意味では、今回の研修で学んだことを今後のうるま市の議会広報に活かしていきたい。

行政視察報告書

令和7年 月 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 _____ 玉城政哉 _____

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等の SNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。
うるま市議会広報委員会では、茨城県取手市及び千葉県船橋市を行政視察し、市議会公式X、Facebook、YouTubeなどのSNSを活用した情報発信や議会広報の取組、さらに公式	

LINEやXを活用した広報について調査しました。両市とも、議会の情報を分かりやすく、迅速に市民へ届けるため、それぞれのSNSの特性を生かした情報発信に取り組んでおり、市民に開かれた議会づくりを推進していました。今回の視察で得た知見を参考に、うるま市議会においても、市民にとってより身近で分かりやすい議会広報の実現につながる取組について検討し、有効なものは積極的に取り入れていきたいと考えています。

行政視察報告書

令和7年2月13日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 玉元哉世

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長

7. 概 要 及 び 所 見 ※写真など挿入可。

所見

○茨城県取手市

【市議会公式X,LINE,YouTubeなどのSNSの取組】

SNSのメリットとして「迅速に情報発信ができる」「情報を欲しがっている人に直接のアプローチができる」を挙げていた。一方でSNSのデメリットは「スピード重視のため、「ミスが起きやすい」とのことであった。議会事務局職員が複数名体制で投稿前には確認作業をしているようであるがそれでもミス投稿が発生するときがあるとのお話があった。市民からのご指摘を受けないようにリスクヘッジをしっかりとすることがSNS活用の大きな課題だと思った。

また、SNS発信することの苦労点として一つのSNSだけにとらわれずに複数のSNS、情報発信媒体を結び付けて情報を発信することのお話もあった。Facebookの投稿にYouTubeのリンクを貼ること。メールマガジンで議会の情報を発信するときは会議の配布資料を閲覧できるホームページのリンクをあわせて送るこ

とも実施するなど様々な取組であった。Youtube配信では360° カメラの導入、字幕表示、公式メルマガの開設もあった。

【議会広報活動の取組】

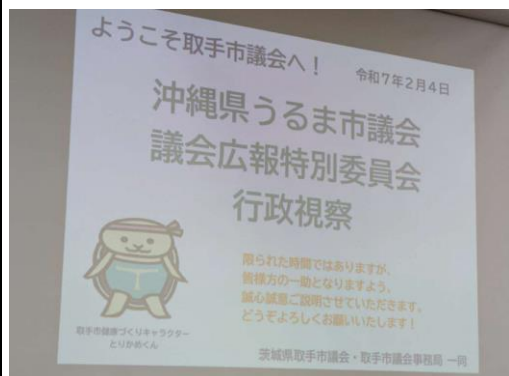
取手市議会報「ひびき」が概要版。紙媒体10,000部を概要版として市内各所へ配置し、コンビニエンスストア、各市の施設など市民が必要な時に手に取れるように仕組み作りを行っている。また、WEB版も推進し、WEB活用によりたくさんの方々・幅広い年齢層の方々に読んでもらえる取組。

また、AI要約システムによる要約結果の掲載。生成AI要約システム及び議会事務局職員により会議録から、議員が行った質問とそれに対すると答弁を要約して、抽出している。最先端の技術を駆使して議会運営に取り組んでいることが伺えた。

議会を市民に知っていただくことを目的として成果はどうなっているのかを質問した。議会の認知度、興味を持ってもらうこととして成果は一定程度出ていると評価。SNSの活用で「中学生との協働事業」Youtubeの限定配信リンクを学校に共有するなど学生に興味を持ってもらう取組の紹介があった。

やはり学生時代から議会に興味を持ってもらうことで子供たちが行政はどのような活動をしているのか将来の市政発展のカギとなる。情報発信が住民参加を担う最も重要な要素であることを学ぶことができた。うるま市でも活用できる部分を広報委員会で知恵を出し合い取組んでいきたい。

取手市役所・行政視察座学の様子



○千葉県船橋市

【市議会公式SNSの取組について】

SNSの導入時の協議内容としては「費用をかけずに実施」「議会事務局で実施する」「発信情報は市議会WEBサイトのトップにある「お知らせ記事」の更新内容とする」「利用者からの投稿への返信はせず、情報発信機能に限定する」など先ずは方針を決めて取り組んでいる。SNSは公式LINE、公式X。掲載内容としては会議等の開会情報、会議に関する情報公開、情報提供、議会中継、会議録検索システムなどを基本にSNS発信。SNSではミスも出てくるので職員複数人で内容を確認し、令和6年度の発信回数は132回発信しており月@11回程度の発信となっている。

本会議で行われる一般質問の質疑者及び順序をお知らせする。例えば、

1. ○○○○議員(会派名)、2. ○○○○議員(会派名)など事前告知をすることで市民への興味を持ってもらう活動がある。しかしながら、SNSのデメリットとして、

Facebookの導入を見送っているとのことだが特定の議員に言及するコメントの書き込みを懸念し導入を見送っている。コメントで炎上などのリスクをヘッジすることが大きな課題と感じた。Youtubeについては予算が必要となり慎重な検討が必要との事で見送り。

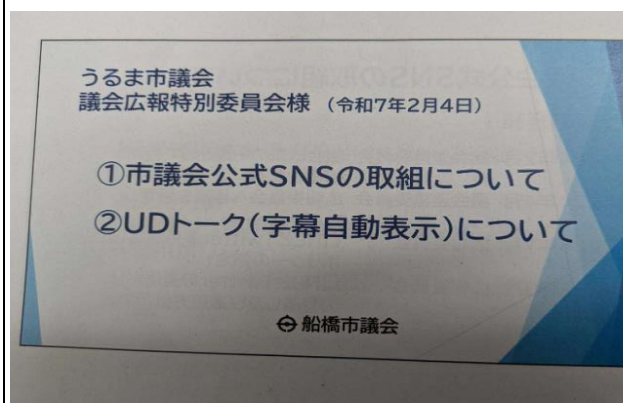
【UDトーク(字幕自動表示)について】

UDトーク(字幕自動表示)の導入の背景の話があった。実施スタートは令和3年2月から実施。実施に至った経緯として広報委員会で視聴覚障害者や手話通訳者からの要望がある旨、委員会から提案があり、検討。音声認識アプリを使って、生中継の音声を取り込み文字化して配信するサービスを活用することとなった。UDトークの選定理由として他自治体でも導入事例がある。比較的費用が抑えられる。容易に音声認識の結果をインターネット上で公開できる機能を備えているなど費用も考えながら検討も進められている。その他出前講座、議場見学会の実施も行っている。

議会に興味がある視聴覚障害者、手話通訳の方々からすると議会を聞けない、議会がわからないとならないためにも弱者に対する配慮もしてきていることがわかった。

文字起こしをすることで市民が参加参画できる環境作りがうるま市でも必要であると感じた。これを機に広報委員会で何が一番の最善なことなのか？費用対効果も考えながら市民への議会周知を図れるようにしていきたい。

千葉県船橋市役所・座学の様子



行政視察報告書

令和7年2月11日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 仲程 孝

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 うるま市議会発足以来、初めてとなる議会広報委員会県外視察に参加することができ、光栄であると同時に公金を使用しての調査であり、責任を重く受け止めての行政視察となるように努めたつもりである。 初めに調査を行った茨城県取手市は、人口規模がうるま市に近く非常に参考になる事例であると感じた。 SNSに関連する取組も先進的であり、まずはコストをかけずにXやFacebookのアカウントを作成し「情報発信は住民参加型議会を実現するうえで最も重要な要素！」「取組は情報発信して初めて取組となる！」との理念は称賛にあたり、リスク管理についても、禁止事項などは設けず、議会は「公開の場」であり、原則全ての情報は公開できるものであるとしている。 議会広報誌については、要約した概要版をこれまで通り紙ベースで発行し、令和2年度から、一般質問などの詳細は、Web版で情報を発信、予算の削減、ペーパーレス化に大きく貢献しているものと思われる。

また、広報誌編集については、民間事業者と提携した、A I 要約システムを導入することで、要約作業が短時間で終了することにより、職員の負担軽減に繋がっている事例も驚きの内容である。

Y o u t u b e 配信については、本会議、委員会、そして全員協議会までもライブ配信し360度カメラも導入するなど、開かれた議会を目指す取組は非常に感心させられる内容である。

取手市については、広報のみに限らず、議会改革ランキング2年連続1位に輝いた実績からも、より市民に開かれた素晴らしい取組だと痛感した時間となった。

次に訪れた千葉県船橋市は、人口が64万人、議員定数も50人と大都市であり、予算規模の違い等あれ、議会中継の字幕表示などの取組は、参考になるものと思われ、しっかりと研究する必要があるとの思いで様々にレクチャーを受けた。

L I N E と T w i t t e r の運用開始が平成25年7月と早く、費用をかけずに実施する、議会事務局が発信作業を行う、などの協議を経てS N S 発信を全国的にもいち早く行っており、運用方針・運用ポリシーに関する取り決めのもと、積極的な発信を行っている印象であり、船橋市では、市議会ウェブサイトへの誘導機能として有効に活用されており、令和6年において年間で約132回もの発信を行っている。

また、UDトーク（字幕自動表示）について令和3年2月から実施しており、聴覚障害者や手話通訳者からの要望を受けて、配信サービスを活用している。

UDトークの選定理由として、他の自治体での導入実績、比較的費用が抑えられるなどを理由に選定したとのことであった。

ほかにも船橋市では、市議会だよりを読んでもらうための取組として、全戸配布以外にも、公共施設、駅スタンド、コンビニエンスストア、公衆浴場等に配架し、より手に取りやすい環境づくりに励んでいるが、財政との関連もあり、うるま市で参考にするのは厳しいとの感想であり、個人的に紙ベースの充実か、データ版への誘導かのどちらかに絞ったほうが良いとの印象である。

その他、船橋市では議会への関心を高める取組が充実しており、広報委員会主催により、議会見学会・意見交換会を夏休み期間中に小学生対象を2回、中学生高校生対象を1回開催し、市議会の役割、仕組み等を議員自ら案内を行っている。

同様に、選挙権年齢の18歳への引き下げに伴う、若年層への主権者教育や身近な政治の場である市議会について、関心を持ってもらうことを目的として、市内の高校へ出向いて出前講座を実施していることは特筆すべき点だと感じた。

いずれにしても、取手市、船橋市の先進的な取組は、議会改革という大きなベースをもとに行われており、うるま市議会において見習う部分が非常に多い事例だと痛感した。

今後の議会広報活動に、必ず反映させなければならないと感じた視察となりました。

最後に公務多忙の中、快く視察を受け入れていただいた両市に、この場を借りて、感謝申し上げます、以上報告とします。

行政視察報告書

令和7年 2 月 17 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 真壁 朝弘

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	議会広報特別委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年2月3日（月）～令和7年2月5日（水）
3. 視 察 先	①茨城県取手市 ②千葉県船橋市
4. 調査内容	①市議会公式X、Facebook、Youtube等のSNSの取組、議会広報活動の取組について ②市議会広報 各種SNS（公式LINE、X）の取組、UDトーク（字幕自動表示システム）について
5. 参 加 者	〔議会広報特別委員会〕 委 員 長 平良一雄 副委員長 天願久史 委 員 兼本光治 神田洋一 金城加奈栄 国吉亮 玉城政哉 玉元哉世 仲程孝 真壁朝弘 事 務 局 山城 太
6. 視察先 対応者	①取手市議会岩澤議長、議会運営委員会赤羽委員長、海東委員、議会事務局長、次長、主事 ②船橋市議会事務局長、議事課長、副主査、主事、総務調査課係長
7. 概 要 及 び 所 見	※写真など挿入可。 うるま市議会広報特別委員会行政視察（真壁 朝弘） 茨城県取手市公式X(旧Twitter)、Facebook、Youtube等のSNS取り組みと議会広報活動のとりくみについて。 【概要】 取手市議会は、定例会や臨時会の本会議をYoutubeの「取手市議会公式チャンネル」でライブ中継および録画配信しています。この取り組みは2017年3月から始まり、議会事務局が配信と編集を担当しています。議会独自の配信サイトはなく、Youtubeを活用することで、市民は自分のデバイスで議会活動を視聴でき、透明性の向上や市民の政治参加促進が期待されています。視聴促進のためにQRコードを議会だよりに掲載していますが、チャンネル登録数は議員数に達していないため、認知度向上が課題となっています。今後、意見交換会やリアルタイム配信を検討して視聴者との交流を深める取り組みも予定されています。

【所見】取手市議会のYoutube配信は、市民が気軽に議会を視聴できる点が良い取り組みだと思います。議会事務局が運営しているので、しっかりと管理されており、Youtubeの活用も便利です。ただ、チャンネル登録数が議員数に達していないため、認知度を上げるための取組が今後重要だと感じました。

【概要】予算削減のため、取手市議会では議会の情報を簡素化しています。概要版は紙で配布され、詳細版はWebで配信されています。一般市民はWeb版のみを閲覧できる形となっています。

【所見】

予算削減のために、紙媒体とWebを使い分けるアイデアは合理的で、効率的に情報を提供する方法だと思います。概要版が紙で配布され、Web版で詳細を確認できる点も、必要な情報にアクセスしやすくなり、環境にも配慮しているように感じます。ただ、一般市民はWeb版のみの利用ということで、インターネット環境がない方には少し不便かもしれません。それでも、デジタル化が進む中で、Web版に集中するのは時代に合ったアプローチだと思います。

【千葉県船橋市役所（視察）】公式X（旧Twitter）、LINEのSNS取り組み、UDトーク（字幕自動表示システム）について。

【概要】船橋市役所は、市民とのコミュニケーションを強化するため、以下の SNS を活用しています。

X（旧 Twitter）：公式アカウント「@Funabashi_city」で、市政情報やイベントのお知らせ、緊急情報などを発信しています。LINE：公式 LINE アカウントを通じて、市民からの問い合わせや情報提供を受け付けています。また、議会の情報発信においては、公式 X アカウント「@Funabashi_Gikai」を活用し、議会の活動や議事録などを市民に提供しています。さらに、議会の本会議の生中継において、UDトーク（音声認識アプリ）を使用した字幕表示を開始しています。

【所見】船橋市役所がSNSを積極的に活用し、市民とのコミュニケーションを強化している点は非常に良い取り組みだと感じます。特に、公式 X やLINEを通じて、市政情報や議会の活動をリアルタイムで発信することで、市民の関心を高め、透明性を向上させる効果が期待できます。また、UDトークを活用した字幕表示により、聴覚に障害のある方や外国語話者への配慮がなされている点も評価できます。今後、これらの取り組みをさらに拡充し、市民との双方向のコミュニケーションを深めることで、より良い市政運営が実現されることと思う。